

# 一般質問17人が登壇

紙面の都合により、質問と答弁の要点のみ掲載しています。市議会会議録は、図書館、公民館、庁舎、地区行政センターなどの公共施設、ホームページまたは議会事務局にて閲覧できます。なお、9月定例会会議録は、12月中旬から閲覧可能です。

## 深谷 幸次郎

**問** 定住自立圏構想の推進に当たってはどのように考えているのか。

**答** 同構想の推進は、地域間の連携を緊密にする上で有益であると認識しており、今後は、国・県等からの情報収集に努めながら検討を行う。

**問** 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の入所待機状況、施設整備状況はどのようにとらえているのか。

**答** 白河市内外の施設への入所希望者は、278人、その内訳は、在宅が82人、老人保健施設が124人、病院入院患者が53人、その他が19人となっている。入所待機者の解消に向けては、第4期介護保険事業計画において改善を進める。

**問** 中心市街地活性化基本計画事業の全体事業費はどのくらいか。

**答** 平成21年度から25年度までのおおむね5年間で実施す

る。現時点における概算事業費として、市が実施主体となる事業で約20億円、県が実施主体となる事業で約22億円、民間が事業主体となる事業で約26億円、全体事業を合計すると約68億円となる。

## 石名 国光

**問** 市民の要望が多い市民会館は、新築か、リニューアルか方向性を示すべきだ。

**答** 築45年が経過しているもので、できるだけ早い時期に方針を検討し、方向性を出していきたい。

**問** 森林公園内の防犯対策として門扉の設置・夜間照明・防犯カメラの設置についてお聞きする。

**答** 施設内は車両進入を禁止し、第一小・南湖入口に車止めを設置し、タイマー付夜間照明や防犯カメラについては十分検討する。

**問** 高速割引、天人紀行の放映など好条件が重なる。秋

の観光シーズンの情報発信と受け入れ体制をお聞きする。

**答** 天人紀行放映日以降、10月にかけて、各観光施設にツーリズムガイド会員の常駐、皮籠原に案内板、パンフレット、天人グッズなどを配布販売する予定である。

**問** 観光協会の今後の見通しについてお聞きする。

**答** 観光業務に経験ある1名を採用、協会の方向性と資源の調査・発掘を進め、来年4月に法人化に向けていく。



ツウリズムガイド白河（観光ボランティアガイド）の皆様による小峰城案内

**問** 深谷 政男  
今年の天候不順による米

のでき具合は、どの程度を見込まれるか。あわせて野菜等への影響も教えてください。

**答** 作柄概況によれば、「平年並み」との見込みを示している。トマトは前年と比べて約1割、キュウリは約2割、モモは2〜3割の落込みがある。

**問** 農産物ブランド化推進事業についてお聞かせください。

**答** 昨年、「農産物ブランド化促進研究会」を立ち上げ、本市農産物の差別化、高品質化を図り、厳しい産地間競争を勝ち抜くため「白河ブランド」の取り組みを展開している。白河市独自のブランド認証制度の制定や販売促進活動など、PRを図っていきたい。

**問** 耕作放棄地の解消について対策を急ぐべきと思うがどうか。同対策事業の現況について示してください。

**答** 6月に耕作放棄地の再生・利用に係る補助事業周知のためのパンフレットを回覧し、現在まで7件の要望が出ている。

**問** 市道2路線の整備方針について考え方を伺います。

**答** 順次、段階的な整備について検討する。

## 須藤 博之

**問** 実質公債費比率の改善要因と今後の見込みについて

**答** 地方債等の繰上償還を3カ年の総額で約25億3000万円し、結果2億3000万円程度の利子負担の軽減ができたこと、図書館を地域防災施設として位置づけし、ま

ちづくり交付金約1億円、白河中央インターチェンジ整備事業で地方道路整備臨時交付金約3億6000万円の交付を受けたこと、道路整備で新たに7路線が国庫補助対象路線に認定され約1億9000万円の国庫補助金の道路交付金を受けると、国・県等の補助制度を活用したことです。今後は、3カ年平均の比率では平成22年度決算で18%を下回るものと見込んでいます。

**問** 公共施設申込みのネットワーク化について

**答** オンライン公共施設予約システムの導入に向け、各施設共通の貸し出しのルールづくり、ホームページによる予約システムの構築について協議しているが、当面は予約の際に、その窓口で対応した職員が、電話での問い合わせを

するなどの受付体制の整備を早い時期に行う。

### 佐川京子

**問** 広域連携医療体制を整備してほしい。

**答** 高度医療を希望し、厚生病院には広域から受診者が集中し慢性的な混雑があるので、地域の開業医と病院とが機能的に連携し効率的に適切な診療に取り組めるよう、医療環境の整備は大変重要と考える。今後、画像診断、情報システムの整備も検討する。

**問** パーソナルヘルスレコードシステムについて

**答** 高齢化社会の健康管理の一つとして生涯型電子カルテ等は大規模なネットワークシステムとなるが、保健センターと在宅高齢者をつなぐ地域の健康管理ネットワークは必要なシステムと考えているので、情報基盤についても検討する。

**問** 来年度末雇用期間継続5年が満了する多くの嘱託職員保育士の処遇をどうするのか

**答** 職員採用の公平性から正職員とするのは難しいので、雇用期間の延長も視野に入れ検討中である。

**問** 保育園民間移管について慎重に検討中である。



### 縄田角郎

**問** 消防団員の募集・確保について

**答** 消防団員は、地域防災の要であり、市民の安心・安全のためには不可欠の組織である。このため、団員の確保は重要な課題であると考えている。現在実施している広報紙等による募集のPRに加え、団員の勤務する事業所等に対して、消防団活動への理解を求めている。

**問** 消防団施設関係について

**答** 消防屯所は、市内に102棟ある。これらの老朽化に伴って建て替えについては、建築年数が25年を経過したものを対象に建て替えを実施する。火

の見やぐらについては、白河地区23基、表郷地区2基、大信地区12基の全体で37基が設置されており、これらの多くは、昭和30年代に設置され、腐食がひどく倒壊のおそれがあることから年次計画で撤去する。

**問** 定額給付金等の用途検証について

**答** 定額給付金は、景気後退下での生活者の不安に対処し、家計への緊急支援とともに市民に広く給付することにより、生活資金として活用され、地域経済対策としての効果は果たしていると認識している。



### 佐川庄重郎

**問** 遊休地利用とその対策について

**答** 市の全体調査結果による

と水田300ヘクタール、畑地477ヘクタールの合計で777ヘクタールとなっている。5月に、農業委員会や土地改良区など農業団体で構成する「耕作放棄地対策委員会」を立ち上げ、今後現地調査を実施し、農地の再生及び利用が可能かどうかを把握し、耕作放棄地の解消に向け取り組む。

**問** 生ごみ処理機等購入補助金について

**答** 平成13年度から本年8月までの累計で電動式処理機804台、コンポスト44台の合計848台を補助している。指定袋で出される可燃ごみのうち、約2割が生ごみであるとの衛生処理一部事務組合の調査結果も出されていることから、今後も補助制度を継続し、関係部署と連携しながら有機肥料としての活用方を検討する。

**問** 関係機関発行の広報紙の統合について

**答** 原則として、広報白河に掲載するお知らせは、チラシ等を作成しないなど情報伝達一本化に努め、新年度からお知らせ版のページ増加を検討する。

### 大竹功

**問** 国の通達では、学校や公園・市道等を含む市有地について、除草剤等の散布を控えるようになってきている。しかし、それらを認知していない一般市民の方がボランティアとして学校や市道等で使用しているとの話を聞いている。現状及びその対策をどのように考えているのか。

**答** 教育機関や市道等において除草剤散布が行われていたと確認している。今後は市民の皆様にご理解を得られるよう広報に努める。

**問** 以前の議会で質問した、市内の空き家・貸家情報市のホームページ等に掲載することについて、その進捗状況は。

**答** 現在、空き家・貸家の状況を調査中である。今後は早急にとりまとめ、掲載等を検討する。

**問** 4月より高齢者無料バスを発行した市内循環バスについて、現況と今後どのように考えているのか伺う。

**答** 一日の1便当たり、昨年同時期の5・7人から8・7人と増加している。循環バス及

び無料パスを継続したい。

### 深谷久雄

**問** 「県庁を郡山市へ」の看板がある。県庁が郡山市にあること、県行政の影響、経済の影響どれほど身近になるか。これまで本市にとって有利と思ってきた。この運動の広がることを期待している。この活動内容を教えてほしい。

**答** 郡山市在住の方が個人的に行っている活動である。平成19年12月の県議会で県庁移転について質問があり財政的に困難であるとの答弁があったと聞いている。

**問** 消防団の組織名称、現在の○分団・○部・○班ではこの地域の消防団が分からない。屯所、消防車、装備などに地域名を明記し、また地域名で呼び、市民の安心感を高めるべきであるがどうか。

**答** 組織内においても「なかなかわからない」という状況があることも承知している。消防に限らず市民から分かりやすいものにしていくことは大変重要であると認識しているので、検討すべき事項であるので、消防団の本部員会議に諮って対応したい。

### 水野谷正則

**問** 合併地域間の連携を強化する道路の整備については、一体化の推進と県南地方の中核都市を目指す上でも重要と考える。市民からも要望や問い合わせが大変多い。中には、町内会全戸の署名まで添えて要望書を提出した所もある。地域を元気にするには「人・もの・カネ」の交流が不可欠であり、次世代を担う子どもたちのためにも、地域間の連携を強化する道路の整備について、市の考えを伺う。

**答** 具体的には、国道4号白河拡幅、国道289号南湖地区の4車線化、国道294号白河バイパス、合併支援道路の整備促進を国・県へ強く働きかける。八竜神形見坂線、金勝寺大谷地線、西郷搦目線などの市道整備には国の交付金等を活用するなど引き続き地域間を結ぶ道路のネットワークの強化に積極的に取り組んで行く。また、表郷堀之内地区から東千田地区を経由して県道釜子金山線に至る整備については、地域のご意見をお聞きしながら、その計画策定や整備手法等を検討する。



秋本番・稲刈り（五箇地区）

### 吾妻一郎

**問** 感染が拡大している新型インフルエンザの予防対策について

**答** 7月24日現在、市内の感染者は3名、相談窓口の設置や全戸へのチラシ配布、広報紙、ホームページなどで繰り返し啓発する。また手洗い、うがいの励行、マスクの着用、外出の自粛など、チラシ等を効果的に活用し予防対策の徹底に努める。

**問** 今年度の水稲の作況指数と今後の病害虫防除及び肥培管理の指導の徹底について

**答** 8月中旬以降の天候の回復でおおむね順調な生育状況で、平年並みの作況の見込みである。水稲栽培情報に基づ

いて、適正な管理に努めるよう周知する。

### 高橋光雄

**問** 教科書採択について

**答** 県教委は、教育長協議会を共同で諮問するための連絡調整を図る機関との認識を示している。

ところが白河地域の採択地区協議会には、教育長協議会から5人の教育長が委員として所属している。これではまるで、自分が自分自身に諮問し答申を受けているようなものなので、おかしいと思うが、どのように考えているのか伺う。

**答** おかしいという意見が出されたことを教育長協議会に報告し、協議する。

**問** 情報公開であるが、採択事務は7月24日に終わっているにもかかわらず、9月1日以降としている理由は何か。ちなみに横浜市は8月4日に発表している。また、今回は閲覧のみでコピーも不可ということでしたが、次回までに改善するのか伺う。

**答** 本採択協議会の採択結果が、まだ決定していない採択地区に影響しないよう配慮したものと考えられる。閲覧等

の便宜については、協議して改善する。



新型インフルエンザ対策・消毒剤と予防のチラシ（本庁舎正面玄関）

### 山本忠男

**問** 新型インフルエンザの実状と、その対策を伺う。

**答** 患者の集中や病床不足の危惧から白河厚生総合病院では、大規模感染時の対策整備に取り組んでいる。また、白河地方の医療圏域の病院、診療所等、関係機関と連携し、医療体制の構築に努める。感染予防として、チラシや広報紙、ホームページを活用し、適切な情報を提供するほか、公共施設に消毒液を配置する。

**問** 仮称「暮らしの便利帳」の発行を提案する。

**答** 市政の状況を迅速かつ正確に伝えることは大変重要と考えているので、最新かつ、

的確な情報提供のため、「暮らしの便利帳」は新年度発行を前提に検討する。外国語版作成も検討する。

**問** 校庭の芝生化を提案、幼稚園の芝生化も要望する。

**答** 校庭の芝生化は、ヒートアイランド対策や砂ぼこりの発生防止、素足の開放感での活動等利点があるが、運動種目による障害や管理と費用の必要性もある。校庭が駐車場として利用されていることも考え、今後調査研究する。

### 藤田久男

生産調整について

**問** 民主党政権が公約に掲げる生産調整は、現制度と比較した場合、市長の見解をお伺いする。

**答** 農政が自民党から民主党に変わろうとも地域の農家を育成し、地域政策としても必要なものと考えている。現段階では、具体的な政策が示されておらず、民主党農政の今後の動向を十分注視していく。小中学校の施設について

**問** 耐震補強後の建築はどのようになっているのか。

**答** 耐震補強は、児童生徒の安全確保を考えて補強するも

のであり、改築については、経過年数や老朽度等を見極めながら、今後計画的に考えていく。



白河第二中学校

### 深谷弘

乳がん検診について

**問** 昨年実施した乳がん検診の結果について、市民から「異議申し立て」があった。これまでの対応と今後の解決方向について伺う。

**答** 昨年12月17日個別検診で受診され、「異常なし」の結果通知を受けた方から、4月27日「3月に体の変調を感じ病院を受診したところ、乳がん（進行した状態）との診断・説明を受けた。検診受診後、短期間で乳がんが進行するとは考えにくい。検診で見落としたのではないか」との申し出があった。申し出を受け、

医師会と協議、翌28日にマンモグラフィ撮影フィルムの再読影を実施、異常所見は認められないことを再確認した。5月12日、検診医療機関で医師から検診時に異常所見は認められなかったことを説明し、6月5日には、白河医師会長から検診所見の説明が行われたが、納得できない状況にある。今回の取り扱いに誤りはないと判断しており、引き続き医師会と協議を行い、必要な説明に努める。

### 大花務

勤務時間の短縮について

**答** 今年の4月から国家公務員の勤務時間は、昨年度の人事院勧告に基づき、「一日7時間45分」となり「15分短縮」された。しかしながら、福島県人事委員会は、昨年度の「勧告及び報告」において、勤務時間の短縮を「勧告」ではなく「報告」にとどめたところであり、これを受け、県は、勤務時間を短縮せず、現在も「一日8時間」勤務としている。

このような中、本市においては、従前より福島県人事委員会の勧告に準ずる取り扱いとすることを基本としていると

ころから、「8時間」勤務としている。なお、県内において勤務時間を短縮した市は、「相馬市」1市のみとなっている。

**問** マイクロ発電について

**答** 水道施設において水力発電を行う場合、一般的に浄水池もしくは水源地と配水池との落差と水量を利用して発電している。大信地区の簡易水道においては水源地から浄水池との間で落差は取れるが、実績では簡易型マイクロ発電装置の最低流量の約10分の1の毎秒7リットルとなっており、安定した発電は難しい状況である。

### 伊藤邦光

白河地方の経済・雇用状況と今後の対策

**問** 白河地方のこの1年間の企業の倒産・閉鎖などの状況について

**答** 昨年10月設立された産業サポート白河でつかんだ市内の状況としては、倒産が3社、閉鎖2社、移転はなし、と確認している。

**問** 新たな国保税減免制度が

7月から実施されたが、失業者などの減免申請者数と減免該当者数は。

**答** 7月の申請件数は、7件で該当件数は5件、総額は62万9200円。なお、8月申請分5件については現在調査中。

**問** 失業者の生活保護申請状況は。

**答** 昨年10月から今年8月まで4件あり、4件とも保護開始。このうち1件は、就労開始自立したため、保護廃止としている。

**問** ここ数年の自殺者数は。

**答** 平成19年44人、20年35人、21年は8月まで18人となっている。

誰にも相談できず困っているとき  
悩みをどこに相談したらよいかわからないとき  
望み立たれ途方にくれているとき  
生きる希望を失い・誰かに力になってほしいとき  
どうぞお電話ください。一緒に考えましょう。

社会福祉法人 福島いのちの電話  
相談電話 024-536-4343  
相談時間 10:00~22:00 年中無休  
〒960-8691 福島中央郵便局私書箱15号  
電話 024-536-0032 FAX 024-536-2840